府立山田高等学校
校長　吉村　烈

平成 24 年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

個々の生徒が、本校での全ての教育活動に対し、挑戦するとともに充足感を得る教育をめざす。
１．生徒に学ぶことの意義を理解させ、一人ひとりの希望進路を実現できる学校
２．本校での生活を通して、常識と良識を備えた人格の形成を図るとともに、生徒が社会と関わり、貢献できる力を育む学校
３．中学生から「行きたい学校」、保護者から「行かせたい学校」として選択され、入学後に満足感を与え、卒業時に来て良かったと思える学校

２　中期的目標

１．学力の向上と進路目標の達成
（１）平成２５年度からの新指導要領に即し、教育課程を本校の実情に合ったものにする。
（２）生徒の進路は、国公立から難関私立大学を中心に、就職まで多岐にわたる。進路に対応した教育課程・内容で授業展開し、生徒が出来る限り選択できるものとする。
（３）生徒の授業評価等をもとに教員は常に向上心を持つ。
ア．生徒の授業評価等を参考にするとともに、教員の自主的な研修ができるよう教員の意識向上を図る。

※センターテスト現役受験者２００人(150)・国公立現役合格１０人(4)以上・難関私立大学合格者１５０人(53)を目標とする。
( )は、H23 年度、現役のみ

２．開かれた学校づくりの推進
（１）本校では学校説明会を休日、平日も含め、10 回近く行っている。形態や説明会用の中身や説明者の増員も含め多くの教員が参加するシステムにしたい。
（２）本校での中学校訪問は、昨年度より学校全体で取り組むこととなった。今後さらに充実すべく内容を検討する。また、校内組織の中で独立させ、広報活動として実施予定である。
（３）本校所在の山田東中学地域は、活動が活発であり、本校も積極的に参加する。
ア．地域教育協議会が主となり、フェスティバルや文化祭・体育祭など活発に活動している。人・物・場所の提供に協力しており、今後も地域の信頼を得るべく努力する。
イ．同地域は、本校生徒の自転車通学の経路となっている。安全確保のため「生徒の意識（マナー）の向上」を常に意識させたい。

※本校の学校説明会参加者（生徒・保護者含む）延べ１５００人
※中学訪問は、出身中学１００％をめざす。生徒の学校説明会への積極的参加させるための方策を検討

３．部活動・行事の活性化
（１）部活動を通じてルールやマナー、豊かな人間性と社会性、チャレンジ精神並びに継続する力を養う。
ア．体育系のクラブが２２あり、生徒総数の約６割が入部している。加入率の増加をめざす。
イ．文化系のクラブが１０あり、生徒総数の約２割が入部している。加入率の増加をめざす。
ウ．学校として学習（授業）を大切にする態度を教員・生徒とも育成する。補習時間の確保も今後検討する。
エ．運動部、文化部を含めた部活動の活性化に向けた工夫等について構築を図る。
（２）生徒の自主的な行事運営をめざす。

※クラブ加入率９０％をめざす。

４．生徒の健康と安全を守る取り組みの充実
（１）生徒の多様化や生徒数の増加に対応に向けた、生徒状況を把握するための体制を強化する。
ア．教育相談体制は、機能を発揮しているが今後の生徒増を想定し、体制強化のため、養護教諭の複数配置要望や委員会メンバーの増員等の対策を図る。
（２）薬物乱用を身近な問題として捉え、薬物乱用防止教育を図る。
（３）登下校時の自転車による交通事故の防止を図る。

※登下校時の自転車事故ゼロをめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［平成２５年１月実施分］	学校協議会からの意見
【学習指導等】 ・ 今年度は授業評価を参考にしつつ、授業力向上にとりくんだ。生徒向け学校教育自己診断での授業満足度は 72%(非常に満足+満足)となり、2 年前の調査の 66%を 10%近く上回った。また 2 年前調査で家庭学習時間で「全くしない」を選んだものが 35%あったが、今回は 30%と 5%減少した。まだ満足できる数値ではなく、生徒たちが本来の力を発揮できるためにも、家庭学習時間を増加させる手だてが喫緊の課題である。 【生徒指導等】 ・ 1 年の遅刻指導を例年よりも厳しく行い、遅刻の減少を図った。しかし頭髪や装飾品の違反に関して「校則を守ることは大切だと考えるので違反していない」とするものがそれぞれ 67%、64%であるのに対して「時間を守ることは大切なので遅刻していない」としたものが 57%。遅刻しないことが当然であるという校風を確立する必要がある。 ・ 部活動満足度は 80%、学校行事への参加度は「積極的」と「やるべきことをやる」を併せ 86%。現在の取り組みを継続していく。 【学校運営】 ・ 思考力を重視した問題解決的学習指導の実施については肯定する教職員が 54%にとどまっている。一層の充実が課題である。 ・ 「初任者等経験の少ない教職員育成体制がとれている」と回答した教職員が 53.8%。職員育成・授業見学の一層の推進が必要である。	第1回協議会 ①地域清掃は地域住民も協力したい。また、植栽、グラウンド整備、植木の剪定は地域の得意とするところなので声をかけてもらいたい。 ②今夏、小学生対象に理科の実験教室が開催され、保護者にも好評であった。今後も一緒に取り組んで親しみのある学校にしていきたい。 ③オーストラリアから生徒が来て交流できたことは非常に評価したい。来年はこちらから行くとのこと。成果を期待している。 ④自転車通学に対する苦情も多いようだが、山田地域には高齢者も多いので注意していただきたい。地域と交流することで対応もソフトになる。 第2回協議会 ①学校教育自己診断で９５％が「来てよかった」と答えているのは素晴らしい。 ②校長がリーダーシップを発揮し、データをもとに経営計画を立てているのは評価できる。 ③部活動参加率が微減しているのは残念だが外部指導者を積極的に招聘していることはよい。①、②、③とも今後ともこの状況を推進されたい。 ④体罰事象が今後とも決して生起しないように、取り組まれたい。 ⑤国際交流、IT 授業は引き続き発展させるように充実を期待する。 ⑥運動部だけでなく芸術系の部活動も盛んになるよう指導を推進されたい。

府立山田高等学校

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
１ 学力の向上と進路目標の達成	（１）新指導要領を考慮し、教育課程を本校の実情に合ったものにする。 （２）進路に対応した教育課程・内容で授業展開し、生徒が出来る限り選択できるものとする。 （３）生徒の授業評価等をもとに教員は常に向上心を持つ。 ア．生徒の授業評価等を参考にするとともに、教員の自主的な研修ができるよう教員の意識向上を図る。	（１）７時間目の授業及び講習、土曜日の午前の活用等 （２）今年度は授業展開に至る過程として、進路別に生徒が参加できる講習を実践したい。 昨年の反省も含め、講習を手始めに方向性を見極めたい。まず３年生の進路希望別講習を実現し、生徒への効果を確認したい。進路別講習に対しても教員の協力が必要となる。教科を指定・依頼し、進めたい。 （３） ア．教員個々の意識の自覚のため、生徒の授業評価の改善及び保護者の意見を発信できるシステムを模索する。	（１）土曜日講習の計画遂行 （２）学校教育自己診断における授業の満足度（非常に満足＋満足の H22　62.9%）の10%アップ ア．進学目標 国公立５人以上・難関私立大学合格者を 100 人以上と安定したものにする。 イ．講習人数 ・３年生は２／３、１・２年生は、１／２の参加をめざす。 （３） ア．授業評価の結果を HP 掲載する。	（１）・7 時間目の授業については、来年度 1 年の 30 期生から時間割に組み込むことが決定。また来年度 2 年の 29 期生についても７限授業を行うこととなった。（◎） ・土曜日講習については数学補習、日本史の講習などを行った。次年度は年間計画を立て、参加教科を増やす。（○） （２）・学校教育自己診断における授業満足度は 72%であった。次年度は 75%をめざす。（○） ア・進学目標 １２月末現在で国公立が２名。難関私立大合格者２２名。次年度は国公立・難関私立合格者８０名を目標とする。（△） イ・講習人数 ・１１月末調査で３年生は夏期講習のべ１１６名、後期講習のべ２２２名、１年生がそれぞれ３６０名、２２７名、２年生が２６５名、１４７名であった。（○） （３）ア・授業評価結果はＨＰに掲載している。次年度も継続して掲載予定である。（○） ・授業の質の向上についてはＨ２４年１２月に発足した授業充実ＰＴから、小河式モジュール授業、バディ・システムなどの発信・実践を行いたい。
２ 開かれた学校づくりの推進	（１）学校説明会を充実させるため、内容を検討する。 （２）中学校訪問を充実させるため、内容を検討する。 （３）本校所在の山田東中学地域は、活動が活発であり、本校も積極的に参加する。 ア．地域教育協議会が主となり、フェスティバルや文化祭・体育祭など活発に活動している。人・物・場所の提供に協力しており、今後も地域の信頼を得るべく努力する。 イ．同地域は、本校生徒の自転車通学の経路となっている。安全確保のため「生徒の意識（マナー）の向上」を常に意識させたい。	（１）説明会用のＤＶＤや説明者の増員も含め多くの教員が参加するシステムにする。 （２）中学訪問で高校のアピールをする一方通行的なものでなく、中学の要望等を聞くことにより連携を深める方策を検討する。 （３） ア．本校の立地条件上、地域と切り離して考えることができない。そのため高校としてできる可能な限りの協力をする。 イ．通学路についてもアと同様である。地域と情報交換しながら生徒の意識向上に努める。	（１）説明会参加者の教員延べ人数 25%アップ （29 人→36 人） （２）出身中学２回訪問するとともに、学校説明会等の生徒・保護者の状況や要望を共有する。 （各行事終了後、報告会の開催） （３） ア．現状維持し地域行事に参加していく。 イ．通学路の安全確保のため登校指導を、８月３月を除く 10 回実施	（１）外部説明会参加教員数は 38 名であった。（○） （２）生徒出身中学は２回訪問（のべ参加教員数 155 名）を行った。また中学の要望により、中学校からの連絡窓口を管理職以外に設けた。 ・次年度は（１）、（２）を含め、広報全体を統括する広報委員会を設置する。（◎） （３）ア・地域のフェスティバルに吹奏楽部、ダンス部を中心に参加した。 ・また小学生対象の科学実験教室（４０名参加）、など地域への貢献をしている。次年度も同じ規模での実施をしたい。（◎） ・別棟となっている図書館棟の一層の活用について、地元公民館、ＰＴＡと協議を進める。 イ・登校指導を 4 月、5 月、6 月、9 月、11 月、1 月の６回実施した。またマナーについては全校集会のたびに注意喚起を行った。（○）
３ 部活動・行事の活性化	（１）部活動を通じてルールやマナー、豊かな人間性と社会性、チャレンジ精神並びに継続する力を養う。 ア．体育系のクラブが２２あり、生徒総数の約６割が入部している。 イ．文化系のクラブが１０あり、生徒総数の約２割が入部している。 ウ．学校として学習（授業）を大切にする態度を教員・生徒とも育成する。 エ．運動部、文化部を含めた部活動の活性化に向けた工夫等について構築を図る。 （２）生徒の自主的な行事運営をめざす。	（１） ア．今後活動時間が制限されていく中で、効率よく活動するための顧問・部員の意識統一方策の検討。 イ．中学や地域へ働きかける行事を計画・実施していく。 ウ．教員は、活動時間の工夫や部活動の活性化に向けた顧問勉強会や情報交換会等を開催する。これにより、生徒が計画的な活動により、学習時間を確保にする力を養う。 エ．顧問と生徒の関係を通じて有効かつ効果的な練習計画を作成し、実践する。 一流選手のワンポイントコーチの導入・外部指導者の校費による活用。 （２）本校では生徒会行事（体育祭・文化祭等）は盛んである。それらの運営に携わることにより社会性を身につける。	（１） ア．クラブ入部率９０％　以上 イ．新しい事業（文化交流会等）の計画・実施 ウ．部顧問研修会計画の実施（前・後期各１回） エ．ワンポイントコーチの招へい及び外部指導者の導入実施 （２）学校教育自己診断による、行事に中心的、または積極的にかかわる生徒 70%をめざす。	（１）ア・クラブ入部率が 82.7%、特に１年女子の運動系部活離れが目立つ（加入率 36.8%）ので、次年度は女子の運動系部活への勧誘を進める。（△） イ　今年度は、昨年までの「スポーツ」講座に替えて、中学生対象の「楽しいスポーツ・文化講座」（399 名参加：前年比 203%）を実施した。次年度も同企画を継続する。（○） ウ　部顧問会議を 2 回実施した。しかし活動時間の工夫や活性化は課題である。（△） エ　指導者不在の部活動に対して、外部指導者の活用を行っている。次年度も、部活動の活性化を保障するために同様の企画を継続する。（○） （２）学校教育自己診断では行事に中心的、あるいは進んでかかわる生徒は 60%である。 ・今年度は関西学院大学教育学部中村研究室との共同研究で「特別活動」での学びについての研究を開始した。次年度も継続する。